

SHEET16 経営情報管理

レベル1

R3 第7問

ネットワーク技術の進展により、情報システムは2000年代より、それまでのクライアント・サーバ型の情報処理からクラウドコンピューティングへと進化した。また2010年代半ば以降は、エッジコンピューティングを活用する動きも見られるようになった。

これらの動きに関する記述として、最も適切な組み合わせを下記の解答群から選べ。

- a クラウドコンピューティングは、インターネットなどを介してコンピュータの資源をサービスの形で利用者に提供するコンピューティングの形態である。
- b パブリッククラウドと違いプライベートクラウドの場合には、自社の建物内でサーバや回線などの設備を構築・運用する必要がある。
- c エッジコンピューティングは、デバイスの近くにコンピュータを配置することによって、回線への負荷を低減させ、リアルタイム性を向上させることができる。
- d エッジコンピューティングを導入することによってIaaSの環境を実現できる。
- e クラウドコンピューティングとエッジコンピューティングは、併存させることはできない。

〔解答群〕

- ア aとc イ aとd ウ bとd エ bとe オ cとe

R2 第21問

情報システムにおいては、情報漏洩(じょうほうろうえい)に対する脆弱性(ぜいじゃくせい)に注意するなど情報セキュリティを高めることが必要である。情報セキュリティにおけるリスクに対処する方法として、「リスクの低減」、「リスクの保有」、「リスクの回避」、「リスクの移転」の4つがある。

このうち、「リスクの保有」に関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア PCの社外への持ち出し禁止など最低限のことだけを行う。
- イ 外部のネットワークからの不正な侵入のようなリスクが生じないように、強固なファイアウォールを構築する。
- ウ 現状のリスクを分析した結果、大きなリスクと考えられない場合はセキュリティ対策をあえて行わない。
- エ 災害による長時間の停止や情報漏洩に備えて、保険に加入しておく。

R1 第22問

情報通信ネットワークを介して、外部の事業者が提供するさまざまな種類のサービスを、中小企業も利用できるようになってきている。

そのようなサービスに関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。

- a 所有する高速回線や耐震設備などが整った施設を提供することで、顧客が用意するサーバなどの設置を可能にするサービスをハウジングサービスという。
- b 所有するサーバの一部を顧客に貸し出し、顧客が自社のサーバとして利用するサービスをホスティングサービスという。
- c 電子メール、グループウェア、顧客管理システム、財務会計システムなどの機能をネットワーク経由で提供するサービスを、ソーシャルネットワークサービスという。
- d 業務用のアプリケーションの機能をネットワーク経由で複数に提供するサービスをISPサービスという。

〔解答群〕

- ア aとb イ aとd ウ bとc エ cとd

R1 第23問

クラウドコンピューティングは、インターネットを通じて提供されるさまざまなサービスを利用してデータ処理を行う利用形態であり、広く利用されるようになってきている。

クラウドコンピューティングのサービスはさまざまな形態で提供されるが、アプリケーション、ミドルウェア、OS、ハードウェアの全ての機能を提供し、複数の顧客が利用するサービスの名称として、最も適切なものはどれか。

- ア IaaS（Infrastructure as a Service）
- イ MaaS（Mobility as a Service）
- ウ PaaS（Platform as a Service）
- エ SaaS（Software as a Service）

H29 第23問

中小企業A社は、現在クライアント・サーバ方式で財務・会計システムを保有しているが、クラウド・コンピューティングへの移行を検討している。

クラウド・コンピューティングに関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア PaaSを利用する場合、ミドルウェア部分のサービスのみが提供されるため、現行のクライアント・サーバシステムを保有し続ける必要がある。
- イ SaaS利用ではアプリケーション、PaaS利用ではミドルウェアというように、それぞれサービスを提供する業者が異なるため、それらをうまく組み合わせてシステムを再構築する必要がある。
- ウ SaaSを利用する場合、課金体系は月額固定制であることが法的に義務付けられているため、システムの利用頻度が高いほど業務単位当たりの実質的コストが軽減できる。
- エ SaaSを利用する場合、業者の提供するアプリケーションを活用することになるため、自社業務への適合性などをよく検討する必要がある。

H28 第 22 問

近年、クラウドサービスが台頭し、自社システムからクラウドサービスに移行する動きが活発になりつつある。クラウドサービスは中小事業者にとっても有益であるが、その利用のためには様々な課題について検討しなくてはならない。

クラウドサービスやその利用に関する記述として最も適切なものはどれか。

- ア クラウドサービスにおいては、情報セキュリティの確保が重要になるが、独立行政法人情報処理推進機構ではクラウドサービスの安全利用に関する手引きを出している。
- イ クラウドサービスの利用料金の多くはサービス内容に応じて異なるが、使用したデータ容量では異なるらないので、コストの観点から大企業の多くがクラウドサービスを利用し始めている。
- ウ パブリッククラウドの形態には、SaaS、PaaS、IaaS、DaaS などがあり、いずれもアプリケーション、ミドルウェア、OS、ハードウェアが一体化されたサービスとしてエンドユーザーに提供される。
- エ オンプレミス型クラウドサービスとは自社でインフラを持たずクラウド事業者からサービスの提供を受ける形態をいい、ホステッド型クラウドサービスとは自社でインフラを持つ企業内クラウドの形態をいう。

H27 第 13 問

企業経営における情報技術の利用が進み、その重要性が増す中で、情報技術を利用するシステムやシステム化指針を省略語もしくはカタカナ語として言い表すことが多くなった。それらに関する記述として最も適切なものはどれか。

- ア PERT/CPM で用いられるクリティカルパス法と情報技術を組み合わせて、顧客と企業との間の業務フローの最適化を行うためのシステムを CRM と呼ぶ。
- イ 企業を構成する様々な部門・業務で扱う資源を統一的・一元的に管理することを可能にするシステムを ERP と呼ぶ。
- ウ クラウドコンピューティングの多様なサービスが展開されているが、その中から最適なサービスを選択するシステム化指針をクラウドソーシングと呼ぶ。
- エ クラウドコンピューティングの利用に際して、社内にサーバを設置して情報の漏えいを防ぐシステム化指針をインソーシングと呼ぶ。

H25 第 16 問

クラウドサービスの活用に関する記述として最も適切なものはどれか。

- ア クラウドサービス事業者が SaaS を提供しているとき、それに必要なサーバを自社で持っていない場合がある。
- イ クラウドサービス事業者がパスワードリセット機能を提供している場合、ユーザ企業ではクラウドサービスのすべての利用者にその方法を伝えて、パスワードを自分で再設定できるようにしておくのがよい。
- ウ クラウドサービス事業者がバックアップをアーカイブとして確保しているので、ユーザ企業側でバックアップする必要はない。
- エ クラウドサービスの稼働率が SLA(Service Level Agreement)で年 99.9%以上と保証されていれば、不慮のサービス停止の場合でも 1 時間以内に稼働状態に復旧できる。

レベル2

R3 第16問

経済産業省は、「デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン（DX推進ガイドライン）Ver.1.0」を平成30年12月に発表している。これは、DXの実現やその基盤となるITシステムの構築を行っていく上で経営者が押さえるべき事項を明確にすること、および取締役会や株主がDXの取り組みをチェックする上で活用できるものとするを目的として作成されたものである。

この中で失敗ケースや先行事例がガイドラインとともに取り上げられているが、これらを踏まえた提言に合致する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア DX推進に当たっては、トップダウンではなくボトムアップで行う。
- イ ITシステムのオーナーシップは、情報システム部門やベンダー企業が持つのではなく、事業部門が持つ。
- ウ 技術起点でPoC（Proof of Concept）を行ってから経営戦略を立てる。
- エ 刷新後のITシステムは、再レガシー化を回避するために、そのITシステムが短期間で構築できたかによって評価する。
- オ 組織・人事の仕組みや企業文化・風土に影響を与えないで済むようにDXプロジェクトを進める。

R3 第23問

顧客当たり月間の平均利益（A）が10,000円である月額課金サービスにおいて、今月の解約率が5%であったとする。今後この解約率が一定であると仮定すると、既存顧客に対するサービス利用の平均継続期間（B）を求めることができる。

顧客生涯価値＝（A）×（B）とするとき、既存顧客の顧客生涯価値として、最も適切なものはどれか。

- ア 50,000円
- イ 75,000円
- ウ 95,000円
- エ 105,000円
- オ 200,000円

R2 第14問

インターネットを用いたマーケティングは、その効果を測定しやすい上、安価に利用できる。そのために、中小企業にも有力な広告媒体として期待されている。

インターネットを用いたマーケティングの効果測定指標に関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア Webサイトを訪れたユーザ全体の中で、商品購入や会員登録などの成果が得られた割合を示す指標を「エンゲージメント率」という。
- イ ある商品の購買が他の商品の購買とどの程度相関しているかを示す指標を「コンバージョン率」という。
- ウ 訪れた最初のWebページだけを見て、他のページに移動せずにWebサイトから離れるユーザの数の全ユーザ数に対する割合を「離脱率」という。
- エ メールによる広告配信を停止したり、ユーザアカウントを解約したりしたユーザの数の全ユーザ数に対する割合を「チャーン率」という。

R1 第 15 問

「ERP（Enterprise Resource Planning）システム」に関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア 基幹業務プロセスの実行を、統合業務パッケージを利用して、必要な機能を相互に関係付けながら支援する総合情報システムである。
- イ 基幹業務プロセスをクラウド上で処理する統合情報システムである。
- ウ 企業経営に必要な諸資源を統合的に管理するシステムである。
- エ 企業経営の持つ諸資源の戦略的な活用を計画するためのシステムである。

H30 第 19 問

情報システムを構築する上で、対象業務の最適化のみならず、企業全体にわたる業務とシステムの最適化を図ることが重要とされている。そのための手法として、エンタープライズアーキテクチャ（EA）が提唱されている。

EA のビジネスアーキテクチャに関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア 各業務において利用されるデータの内容やデータ間の関連性を体系化するもので、その結果、E-R 図などが作成される。
- イ 共通化・合理化などを行った実現すべき業務の姿を体系化するもので、その結果、機能構成図や業務フローなどが作成される。
- ウ 業務処理に最適な情報システムの形態を体系化するもので、その結果、情報システム関連図などが作成される。
- エ システムを構築する際に利用するもろもろの技術的構成要素を体系化するもので、その結果、ネットワーク構成図などが作成される。

SHEET16 経営情報管理			
レベル1	R3	7	ア
	R2	21	ウ
	R1	22	ア
	R1	23	エ
	H29	23	エ
	H28	22	ア
	H27	13	イ
	H25	16	ア
レベル2	R3	16	イ
	R3	23	オ
	R2	14	エ
	R1	15	ア
	H30	19	イ